

I. 家計簿の記帳と家計の安定

(1) 家計簿をつけているのはどんな世帯？

30～50代の子どもがいる核家族世帯を対象に、現在、家計簿をつけているかどうかについてたずねた。

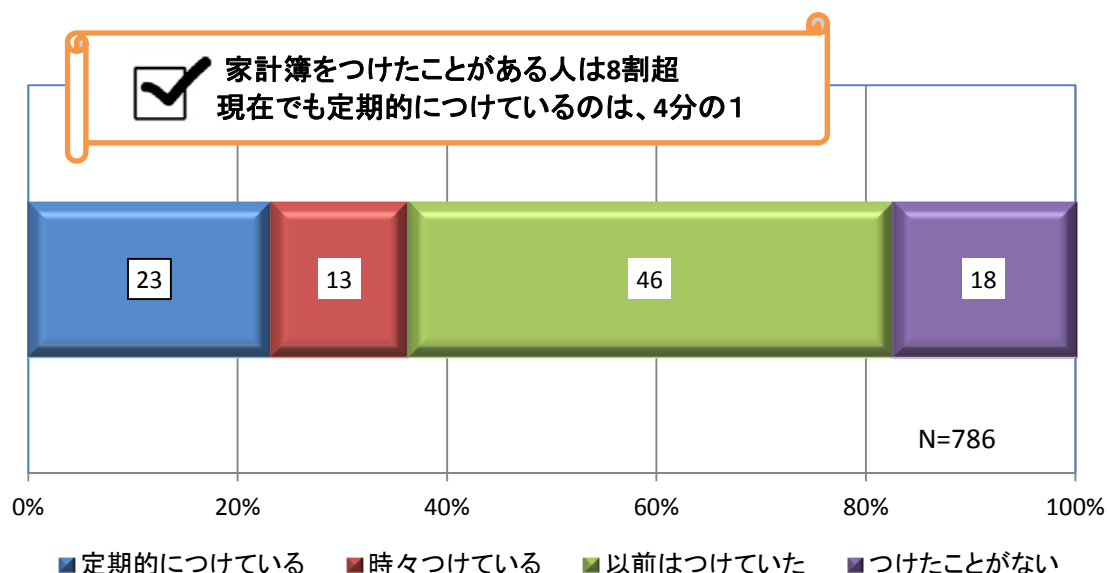
定期的到家計簿をつけていると答えたのは全体の4分の1弱(23.2%)であり、つけたことがまったくないと答えたのは2割弱(17.5%)であった。全体の8割以上の世帯は、家計簿をつけているか、少なくとも以前はつけていたことがあることがわかる(図表I-1)。

また、定期的到家計簿をつけている人の割合を、妻の仕事の状況別にみると、妻が専業主婦の世帯でやや高いものの、おおむね2割前後であった。

家計簿をつけているかどうかと、妻の年齢・世帯の収入・支出の関連をみると、妻の年齢による差は大きくはなかった。収入や支出についても、定期的到家計簿をつけている世帯では収入も支出も若干多めだが、収入と支出の差でみると特に大きな差はなかった。

妻や世帯の状況によらず、家計簿をつけること自体は多くの人(妻)が経験していることがわかった。ただし、定期的につけている人となると、その割合は決して多くはないようである。

図表 I-1 妻の家計簿記帳の状況



(2) 定期的に家計簿をつけている人は、収支への満足度が高い

妻が家計簿をつけているかによって、家計のやりくりに対する意識が違うのではないだろうか。ここでは、家計簿をつけているかどうかと、収入・支出額に対する満足度を調べた。

まず収入に対する満足度は、家計簿を「定期的につけている」・「時々つけている」世帯では、満足と回答した世帯が4割を超えているが、現在つけていない世帯では3割程度と少ない。支出額に対する満足度は、「定期的につけている」および「つけたことがない」人では、4割程度と他と比べて満足の割合がやや高くなっている。

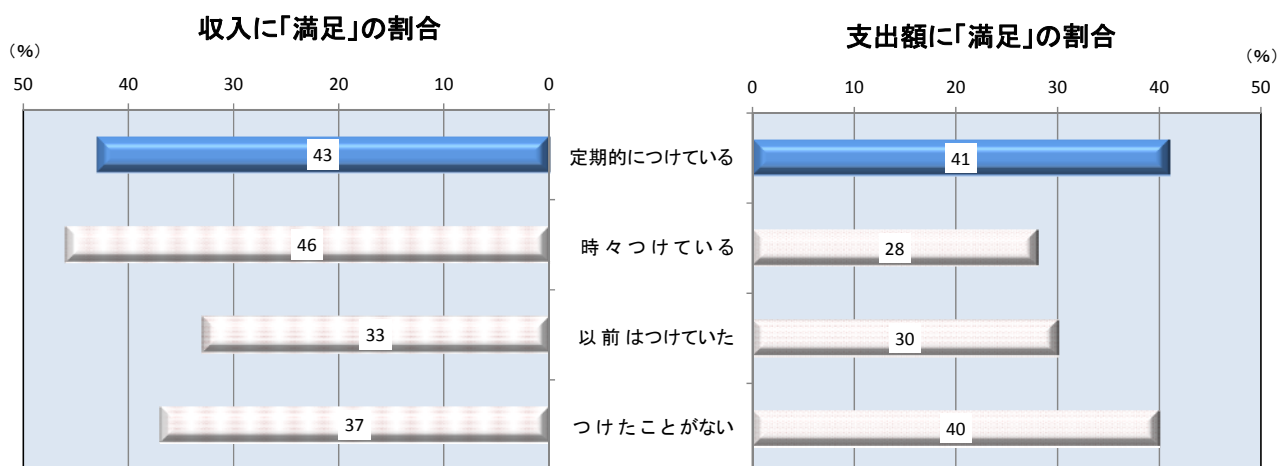
つまり、「定期的につけている」人は、収入・支出額の両方で満足の割合が高くなっていることがわかる。定期的に家計簿をつけている人は、収支をしっかりと把握していることで家計をコントロールできているという実感があり、それが収支両方の満足につながっているのだろう。

一方、「時々つけている」人では、収入に対する満足度は高いが、支出額に対する満足度は低くなっている。日常的に収支の把握につとめることは、家計に対する不満を生まない第一歩なのかもしれない。

図表 I -2 家計簿記帳の状況と収入・支出額の満足度



家計簿を定期的につけていると、
収入・支出額、どちらも満足の割合が大きい



N=786

(3) 家計簿を定期的につけると、継続的な貯蓄ができる

家計簿をつけることは、意識の面では家計に対する満足度を高める傾向があった。では実際の家計に対しては、どのような効果が期待できるのだろうか。

ここでは、月々の定期的な貯蓄（生命保険等を含む）を行っているかどうか注目し、特に「3年連続・3万円超貯蓄」が達成できた家計の割合を、ひとつの指標として取り上げる。3万円超の貯蓄ができる家計が、全体に占める割合をみると、1年だけなら66.8%であるが、3年連続になると42.8%になる。コ
ンスタントに貯蓄を続けることは、決して簡単ではないようである。

次に、「3年連続・3万円超貯蓄」が達成できた家計の割合を、妻が家計簿をつけているかどうかの別
にみてみた（図表I-3）。「これまでつけたことがない」「以前つけたことがあるが、現在はつけていな
い」「時々つけている」という家計の場合、いずれのタイプでも「3年連続・3万円超貯蓄」が達成でき
たのは約4割の世帯にとどまっていた。これらに対して、家計簿を「定期的につけている」世帯では、
約6割が「3年連続・3万円超貯蓄」を達成できていることがわかった。

家計簿を定期的につけることは、家計に対する満足度を高めるだけでなく、継続的な貯蓄の達成にも
つながるといことが示されている。家計簿をつけることには、単なる記録という以上の効果があるの
かもしれない。

図表 I-3 家計簿記帳状況と「3年連続・3万円超貯蓄」ができた世帯の割合

